2018 7.9 vol.849

JA全農ウィークリー WEEKLY

6-7面 収穫の秋に思いはせ、各地で田植え体験

2面 シンガポールに日本産果汁のジュースバー

シンガポールで日本産果汁飲料を販売（2面）

コンビニのポプラが販売する「ひろしま米」を使用し店炊きで人気の「ポプ弁」（3面）

生協の親子が参加した田植え交流会＝徳島県で（6-7面）

2 台湾で日本産米の寿司を提供（米穀部）

3 「エーコープマーク品」ホームページ一新（生活リテール部）

店炊きご飯の品質向上へ県本部職員が店舗巡回（広島県本部）

4 特集：鈴木宣弘東京大学教授、特別寄稿（広報部）

5 特集：神出理事長が「農業のデジタルイノベーション」について講演（広報部）

8 第51回全農乾椎茸品評会を開催（麦類農産部）

9 平成30年7～9月期の配合飼料、前期比平均トン当たり1550円上げ（畜産生産部）

10 JAズームイン（JA青森）

11 県本部だより（東京都本部）

12 7月28日、北海道北見市でカーリングキャンプ開催（広報部）

JAタウンショップ紹介 JA新おたる（北海道）

News!

シンガポールに日本産果汁のジュースバー

6月開店のドンドンドンキ店舗で販売

全農インターナショナルアジア㈱

全農インターナショナルアジア株式会社は、シンガポールに今年6月に開店した「ドンドンドンキ」2号店で、日本産果汁飲料の販売を始めました。

日本でも海外観光客に大人気の店舗を展開するドン・キホーテグループが、新業態であるドンドンドンキを、シンガポールに昨年12月の第1号店に続いて、第2号店を6月14日に開店しました。

同店では新たな試みとして、日本全国のご当地ジュースバーを設置したことに対応し、全農インターナショナルアジアが7種類の果汁飲料（リンゴ、ミカン、桃、ユズ、シソ、ラ・フランス、ブドウ）を納入しています。また、同店のお米売り場では、第1号店に続き、全農インターナショナルアジアが納入した、「はえぬき」「コシヒカリ」などが販売されています。

全農グループは、シンガポール・タイなどに店舗拡大するドン・キホーテグループに、多様なラインアップの商品を販売することで、今後も日本の農畜産物の輸出拡大に取り組んでいきます。

日本産ジュースの販売を始めたシンガポールの「ドンドンドンキ」2号店

列を作るシンガポールの人たち

News!

台湾に「スシロー台北館前路店」オープン

全農の日本産米を使用した寿司を提供

米穀部

全農と資本関係にある㈱スシローグローバルホールディングスは6月15日、回転寿司チェーン「スシロー」の台湾1号店「スシロー台北館前路店（台北市中正区）」をオープンしました。全農パールライス㈱が輸出したお米を使用しています。

同店は、㈱スシローグローバルホールディングスが台湾に初めて出店した店舗で、台湾における旗艦店となります。海外に展開した「スシロー」としては、韓国についで2カ国目です。

オープニングセレモニーには全農から山本貞郎米穀部長、全農パールライス㈱から前田守弘社長らが出席し、台湾1号店の開店を盛大に祝いました。

同店は台北市の駅前で特にアクセスの良いエリアに位置し、台湾のお客さまに日本の寿司のおいしさを体感していただくべく、日本のスシローで人気のメニュー約130種が提供されます。

使用するお米は全農が取り扱う日本産米（輸出用米）で、全農パールライス㈱が精米を輸出し、店舗で炊飯して寿司飯として提供されます。

8月には同じ台湾に2号店の出店も予定されています。

全農は今後も、取引先との提携などを実施し、日本の食文化を通じて、海外に日本のおいしい農畜産物を広げていきます。

「スシロー」台湾1号店の開店を祝う関係者

News!

『エーコープマーク品』ホームページを一新

さらに見やすく、探しやすく、楽しく

生活リテール部

生活リテール部は、先の「Facebook」"エーコープマーク品広報委員会"の情報発信に加え、6月末からホームページを一新しました。

食と農をイメージしたトップページに変更し、スマートフォンからも閲覧が可能になりました。掲載点数やレシピも大幅に増やし、商品や取扱店舗検索もしやすくなりました。新しくなった「エーコープマーク品ホームページ」に、ぜひアクセスしてください。

エーコープマーク品のトップページ

商品紹介のページ

スマートフォン画面イメージ

News!

店炊きご飯の品質向上へ県本部職員が店舗巡回

「ひろしま米」提供のコンビニ弁当の底上げさらに

広島県本部

中国地方を中心に展開するコンビニのポプラと広島県本部は、店頭で炊くご飯が人気の「ポプ弁」のご飯を審査する「店炊きごはんコンテスト」を2年前から行い、全国から選ばれた優良10店舗を同社社員と県本部職員が審査しています。今年度は県本部職員が毎月県内の数店舗を巡回し、コンテストと同基準で審査する取り組みを新たに開始。コンテストで巡回の対象とならなかった店も回り、ご飯品質の底上げを図ります。

「ポプ弁」は、おかずを温めた後に炊きたてご飯をよそう同社自慢の弁当。地産地消の観点から、広島県内の店舗では県産「コシヒカリ」を使用しています。

店舗巡回による審査では、味や炊き方の他、衛生面や接遇など店のマネジメントも評価。結果を同社本部に報告し、店舗指導も行うことでサービス全体を向上させます。

ポプラ営業本部営業推進室の龍王進室長は「全農ひろしまと協力し『おいしい県産米を使用しているポプ弁』の認知度を高めたい」と強調。県本部米穀販売課は「県産米のPRに加え、業務用米も含めた販売先との関係強化につなげたい」と力を入れています。

店で炊いたご飯が人気の「ポプ弁」とひろしま米を使用していることを伝えるPOP

「ポプ弁」に店炊きご飯を盛り付ける店員

特別寄稿（転載）

農は国の本なり

東京大学教授　鈴木 宣弘

武器としての食料

国民の命を守り、国土を守るには、どんなときにも安全・安心な食料を安定的に国民に供給できること、それを支える自国の農林水産業が持続できることが不可欠であり、まさに「農は国の本なり」、国家安全保障の要である。

例えば、米国では食料は「武器」と認識され、多い年には穀物3品目だけで1兆円に及ぶ実質的輸出補助金を使って輸出振興し、いかに世界の人々の「胃袋をつかんで」牛耳るか、そのための戦略的支援にお金をふんだんにかけても、軍事的武器より安上がりだという認識である。

また、日本の農家の所得のうち補助金の占める割合は3割程度なのに対して、EUの農業所得に占める補助金の割合は英仏が90%前後、スイスではほぼ100%と、日本は先進国で最も低い。命を守り、環境を守り、国土・国境を守っている産業を国民みんなで支えるのは欧米では当たり前なのである。

食料自給率の維持は不可欠

我が国の食料自給率は38%（カロリーベース）まで下がっている。海外産が安いからといって国内生産をやめてしまったら、2008年の食料危機のときのように、輸出規制でお金を出しても売ってくれなくなったとき、日本人も飢えてしまう。だから、普段のコストが少々高くても、ちゃんと自分の所で頑張っている人たちを支えていくことこそが、実は長期的にはコストが安いということを強く再認識すべきである。

しかも、輸入農産物は、成長ホルモン、遺伝子組み換えなどのリスクがある。食料安全保障には質と量の両面がある。質の安全保障を確保するには量の安全保障、つまり、食料自給率の維持が不可欠なのである。

しかし、さらなる貿易自由化と国内の規制緩和による既存の農業経営の崩壊、農協解体に向けた措置、外資を含む一部企業への便宜供与、そして、それらにより国民の命と暮らしのリスクが高まる事態が「着実に」進行している。

国家安全保障政策としての農業政策

日本の農産物は買い叩かれている。農家の農業所得を時給に換算すると、お米で480円、果物や野菜でも500～600円程度。

国内農家の時給が1000円に満たないような「しわ寄せ」を続け、海外から安いものが入ればいい、という方向を進めることで、国内生産が縮小することは、国民全体の命や健康、そして環境のリスクは増大してしまう。自分の生活を守るためには、国家安全保障を含めた多面的な機能の価値も付加した価格が正当な価格であると消費者が考えるかどうかである。そして、価格に反映しきれない部分は、全体で集めた税金から対価を補てんする。これは保護ではなく、様々な安全保障を担っていることへの正当な対価である。

「食を外国に握られることは国民の命を握られ、国の独立を失うことである」ことを常に念頭において、国家安全保障確立戦略の中心を担う農林水産業政策を再構築すべきである。【要約】

本稿は雑誌『**表現者 クライテリオン**』（啓文社書房）2018年7月号から始まった連載「**農は国の本なり**」の第1回記事を、著者・出版社の承諾を得て要約・掲載させていただいたものです。

雑誌の定期購読などのお問い合わせは

オフィシャルホームページ●https://the-criterion.jp/

あるいは、啓文社書房
TEL●03(6709)8872　e-mail●info@kei-bunsha.co.jp
までお願いします。

JAグループが描く農業のデジタルイノベーション

「AG（アグ）／SUM（サム）2018」で神出元一理事長が講演

東京・日本橋で6月11日、「アグリテックサミット（AG／SUM）2018」が開かれ、神出元一理事長は「JAグループが描く農業のデジタルイノベーション」と題し講演しました。その内容を紹介します。

【広報部】

「JAグループが描く農業のデジタルイノベーション」をテーマに講演する神出理事長

生産・消費環境の変化と「農業のデジタルイノベーション」

農業の生産現場では、耕作放棄地の拡大や生産者の高齢化が進む中、新規就農者の増加といった変化も見られます。

食の消費を巡っては、共働き世帯の増加や高齢化が続く中、eコマースの拡大や訪日客の増加といった変化も進んでいます。

こうした生産と消費の劇的変化に対し、その解決の鍵の一つが「農業のデジタルイノベーション」だと思っています。

全農の研究開発の取り組み

全農は半世紀前から自前の技術研究所を構え、農業技術やノウハウを蓄積してきました。この4月から開始した「Z-GIS」では、気象情報や圃場（ほじょう）ごとの情報などを位置情報とともにデータベース化されます。労働力不足問題に対しては、ドローンや搾乳ロボットの導入などを進めています。

新しい技術を生産者が使いこなしていくためには、JAグループによるサポートが必要です。TACのこれまでの10年間の活動データを、AIを使って処理できれば、全国の生産者のニーズに対する的確な答えを得ることができます。

各種農業情報から高収量・高品質の農業生産を目指す

これから取り組みたいことは、アグリフードバリューチェーンを新しい技術やAI、IoTを活用し、より高度化させていくことです。そのため、他企業との業務提携や出資を充実・加速化させていきます。

JAグループのデジタルイノベーション

われわれが目指すJAグループのデジタルイノベーションの姿は、営農・販売・金融・共済など各事業のデータを連携とエクスチェンジにより、高度に活用される仕組みをつくり、組合員や顧客の満足度を高めることです。

パネルディスカッション

講演後、神出理事長、農林中金の金丸哲也専務、日本経済新聞社の吉田忠則編集委員、日本総合研究所の三輪泰史シニアスペシャリストによるパネルディスカッションが行われました。

その中で、吉田編集委員から「農協に対し記者はネガティブである場合が多い。現場で農協や全農の取材をしたことのない記者が、あたかも農協が農業の発展を阻害してきたという思い込みで記事を書くことがある。日本の食糧問題が厳しい中、この苦境を救うことができるのは農協というインフラだと思う」との発言がありました。

各地で田植え体験

田植えの季節を迎え、全国各地で子どもたちや消費者、取引企業の社員らが田植えを体験しました。農業理解に一役買うイベントで、歓声が響く中、手植えに励み、田んぼに並んだ早苗に参加者は達成感を味わったようです。【各県本部】

富山県本部　JAと田植え体験ツアー受け入れ

富山県本部とJAアルプスは5月19日、中京地区でスーパーを展開するアピタ・ピアゴと共同企画で、田植え体験ツアーを行い、抽選で選ばれた親子20組40人が参加しました。

参加者は印に沿って順番に苗を植えていき、泥の感触を肌で感じながら田植え体験を楽しんでいました。田植えの体験後には、参加者全員で長さ12㍍の巨大太巻き作りに挑戦し、産地と消費者との交流を深めました。

参加者全員で長さ12㍍の巨大太巻き作り

愛媛県本部　JC×JA 田んぼアート事業がスタート

愛媛県今治市で6月17日、今治青年会議所（JC）はJAおちいまばりなどと協力し田んぼアート事業をスタートさせました。

田んぼアートは、約25㌃の水田を巨大なキャンバスに見立て色の異なる稲を使って、同市のゆるキャラ「いまばりバリィさん」と花火、「結」の文字を描きます。同市内の小中高校生と保護者ら約300人が参加しました。水田横にやぐらを設置し、誰でも稲の成長を観察することができます。

7月29日には見頃を迎えた田んぼアートの鑑賞会、秋には稲刈りと感謝祭などを行う予定です。

苗を植える目安となる「いまばりバリィさん」が描かれた田んぼ

目安に沿って手植えする参加者

徳島県本部　生協の親子が特別栽培米「乙姫米」の里で田植え

とくしま生協とJAかいふ、徳島県本部などが共同で取り組む、乙姫米（特別栽培米）の里田植え交流会が4月21日、美波町のJAかいふ管内で開かれました。参加した生協の親子53人は、県農業支援センター職員の指導を受け田植えを体験しました。

水田に参加者が1列に並び、足を取られそうな軟らかい泥の感触を肌で感じながら、歓声を上げ親子で楽しく「乙姫米」を植えました。

交流会では徳島県本部米穀総合課の職員が、バケツ稲づくりセットなどの配布を行いました。

ぬるぬるした泥の感触を感じながら親子で協力して1株ずつ手植え

酒造会社がJA阿波町の地域ブランド「阿波山田錦」を手植え

徳島県阿波市で6月15日、全国11社の酒造会社の役員や杜氏（とうじ）、JA阿波町、徳島県本部など28人が出席し、酒造好適米「阿波山田錦」の田植え交流会が開かれました。

この交流会は、生産者と契約販売先との交流を深め、米の品質に関する要望や意見交換をする場として、田植え、生育期、収穫前の年3回行われ、今年で26年目です。

出席者は管内の水田で1株1株、田植え綱の印に合わせて手植えしました。

JA阿波町管内の水田で「山田錦」を植える酒造会社関係者ら

収穫の秋に思いはせ

秋田県本部

今年で10周年！「京急あきたフェア2018」キックオフイベント

今秋開かれる「京急あきたフェア2018」（「あきたecoらいす」応援プロジェクト）のキックオフイベントの田植えが5月31日、北秋田市で行われ、京急グループ社員や秋田県立秋田北鷹高校の生徒、JA関係者ら約50人が参加しました。「京急あきたフェア」は今年で10周年。秋には、この水田で京急グループ社員と秋田北鷹高校の生徒が一緒に稲刈りを行い、収穫したお米は京急百貨店や京急ストアなどで販売・PRする予定です。

「京急あきたフェア2018」キックオフイベントで田植えをする参加者

サッカーJ3リーグチームと「元気わくわくキッズプロジェクト」

秋田県本部は5月26日、サッカーJ3リーグのブラウブリッツ秋田との共同企画「元気わくわくキッズプロジェクト」第1弾を開き、参加した県内の小学生ら36人が、手植えを体験しました。

当日は、青空の広がる絶好の田植え日和。素足で田んぼに入るまで少しためらう子どもも見られましたが、元気いっぱい楽しそうに田植えを行っていました。

9月下旬には第2弾として、稲刈りも予定しています。

秋田県内の小学生が手植えを体験

福島県本部

親子がAmazon田植えツアー

インターネット販売を行うAmazonによる田植えツアーが6月2日、JA会津よつば管内の水田で開かれました。2年目となるツアーには、抽選で選ばれた消費者10組39人が参加しました。

JAや生産者が準備した地元食材の昼食を味わった後、参加者は子どもも大人も素足で田植えをしました。ほとんどが未経験者のため、悪戦苦闘が予想されましたが、水稲部会の指導もあり、予定を上回るスピードで、用意した田んぼに苗を植えることができました。

水稲部会の指導を受け田植えを体験

栃木県本部

「とちぎ米」お買い上げ消費者招き田植えツアー

栃木県本部は5、6月にAmazon、エーコープ関東でとちぎのお米をお買い上げいただき、抽選で選ばれた方々や県内の留学生を招待した田植えツアーを、県内JA管内で開きました。

参加者はJA職員や生産者からレクチャーを受け、泥だらけで手植えに挑戦しました。昼食では、各JA管内のお米や野菜、イチゴなど県産の食材を用いたご飯で疲れを癒やしました。

「手植えは足腰が疲れたが、充実感でいっぱい」との感想もあり、“お米作り”を考えるきっかけ作りができました。

手植えに余裕の留学生ら

埼玉県久喜市で

第51回全農乾椎茸品評会を開催

担い手を育て、守ろう原木栽培、競おう栽培技術、世界に広めよう日本の食文化！

農林水産大臣賞を受賞された方々

全農は6月14日、生産者・関係者ら約200人が参加し、埼玉県久喜市の久喜総合文化会館で第51回全農乾椎茸品評会を開き、農林水産大臣賞ほか優秀者を表彰しました。【麦類農産部】

原木乾椎茸は、原発事故により東日本産地が直接的な被害に遭うとともに全国的に風評被害を受けました。東日本産地では現在でも出荷再開に向けた懸命な努力が続けられています。昨年から今年にかけては各地で豪雨や、厳しい寒波などで例年にも増して栽培が難しい年となりましたが、品評会には全国22県から539点の出品をいただきました。

農林水産大臣賞を受賞した乾椎茸

展示会で入賞した乾椎茸を見る参加者

表彰式で、全農麦類農産部の鈴木章宏部長は「新たな担い手が受賞するなど新しい芽が育っている。再生産可能な価格での販売を継続し、素晴らしい日本産原木乾椎茸を盛り上げよう」と主催者代表あいさつをしました。また、こうしん中葉厚肉の部で農林水産大臣賞を受賞された岩手県の芳賀隆氏から、東日本大震災や原発事故で被害を受けたが、周りの方の助けにより乗り越え受賞できた感謝と喜びが語られました。

また、受賞品は翌日開催された入札会で、贈答や輸出などに向け、高値で取引されました。

全農は、生産者と消費者の懸け橋となり原木乾椎茸をもっと知ってもらい、食べてもらえるよう取り組んでいきます。

農林水産大臣賞（敬称略）

規　格	県	JA名	受賞者名（敬称略）
大葉中肉	静岡	伊豆の国	桑名 二朗・享子
中葉厚肉	岩手	新岩手	芳賀 隆・幸子
中葉中肉	愛媛	愛媛たいき	成髙 王洋・敦子
花どんこ	鳥取	鳥取いなば	森 栄伸・美智子
上どんこ	岩手	新岩手	佐々木 映実

団体表彰

優勝
全農岩手県本部

準優勝
全農鳥取県本部

News!

平成３０年７～９月期の配合飼料供給価格について

前期比で全国全畜種総平均トン当たり約１５５０円値上げ

【畜産生産部】

平成30年7～9月期の配合飼料供給価格については、飼料情勢・外国為替情勢などを踏まえ、平成30年4～6月期に対し、全国全畜種総平均トン当たり約1550円値上げすることを決定しました。

＊なお、改定額は、地域別・畜種別・銘柄別に異なります。

飼料穀物

トウモロコシのシカゴ定期は、3月には380セント／ブッシェル前後で推移していましたが、3月29日発表の作付意向調査で米国産新穀の作付面積が減少する見通しとなったこと、産地において低温多雨による作付遅延の懸念が高まったことなどから、400セント／ブッシェル台まで上昇しました。その後、天候が改善し米国産新穀の生育が順調に推移していることなどから、現在は370セント／ブッシェル前後となっています。

今後は、夏場の受粉期に向けて、天候に左右される相場展開が見込まれます。

大豆粕

大豆粕のシカゴ定期は、3月には410ドル／トン前後でしたが、米国産新穀大豆の作付面積が減少する見通しとなったこと、南米産大豆の不作により南米産大豆粕の輸出が大幅に減少し、米国産大豆粕の輸出需要が増加すると見通されたことなどから、430ドル／トン台まで上昇しました。その後、米国産新穀の作付進捗が平年並みとなり生育も順調に推移していることなどから、現在は380ドル／トン前後となっています。

国内大豆粕価格は、シカゴ定期の上昇と為替の円安により、値上がりが見込まれます。

海上運賃

米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、2月には45ドル／トン前後でした。その後、南米産大豆の輸送需要が一段落したものの、原油相場が堅調であるため、現在も45ドル／トン前後となっています。

今後は、南米産トウモロコシの輸送需要が本格化することから、海上運賃は底堅く推移するものと見込まれます。

外国為替

外国為替は、3月には1ドル106円前後でしたが、中東や朝鮮半島における国際紛争リスクが低下するとの期待や、良好な米国経済指標により利上げ観測が強まったことなどから円安が進み、現在は110円前後となっています。

今後は、米国の経済・産業政策の動向や地政学的リスクなどを材料に、相場は現行水準で推移するものと見込まれます。

◆◆◆

以上から、外国為替の円安に加え、トウモロコシのシカゴ定期や大豆粕価格が値上がりしていることなどから、平成30年7～9月期の配合飼料価格は前期に比べ値上げとなります。

JAズームイン

成長著しいミニトマト部会 2年後、販売高倍の2億円へ

ミニトマト部会発足2年で販売高1億円を成し遂げ記念祝賀会開催

現地講習会で栽培方法を共有し合う部会員

JA青森は、東青地域（1市3町1村）から成り立つJAです。気候は、日本海型気候で夏はヤマセの影響を受けやすく、冬は降雪量の多い積雪寒冷地です。八甲田山からの良質な水で育成された農産物など豊富な食資源が存在します。

生産増える米「青天の霹靂（へきれき）」品種多彩なリンゴ、輸出も

現在、水稲は、「つがるロマン」「まっしぐら」が主力であり、2015年産から特A評価を得ている「青天の霹靂」は一部地域で生産が始まり、年々、生産者・出荷量が増えてきています。野菜はトマトを2選果場で選果、関東をメインに出荷し夏秋野菜を盛り上げています。リンゴは、早生から晩生まで多くの品種を作付け、県内外だけでなく、海外へ輸出しています。

部会発足2年で目標の販売高1億円をクリア

その中でも今、勢いがあるのがミニトマトです。2016年に13人で、ミニトマト部会を設立しました。収益性が高いため、新規就農者にも人気の品目で、参加人数が翌年には20人に増え、3・2㌶まで作付面積が増えました。2017年度には、販売高1億508万円、出荷数量156㌧と、部会設立時の目標である販売高1億円を発足2年で成し遂げ、達成祝賀会を青森市で開きました。祝賀会には、副市長や村長らも駆け付け喜び、今後の発展に期待を寄せていました。

目ぞろえ会で品質の説明をする我満智部会長㊧

2017年度は視察研修、目ぞろえ会、現地講習会を行い、2018年度には回数を増やし、作付け品種の統一だけにとまらず、肥料・農薬など栽培面でも統一し、技術の標準化と高品質生産の継続によるブランドの確立を目指します。また、2020年までに販売高2億円達成を目標に掲げています。

JA青森（青森県）

概要	平成30年3月31日現在
正組合員数	7814人
准組合員数	6091人
職員数	251人
販売品取扱高	56億2千万円
購買品取扱高	32億7千万円
貯金残高	702億5千万円
長期共済保有高	2621億2千万円
主な農産物	水稲、リンゴ、トマト、ミニトマト

JR新宿駅南口から徒歩4分のところにあるJA東京アグリパーク

買い物客でにぎわう店内

県本部だより

「旬八青果店」とコラボ 国産農畜産物をPR

情報発信、販促の拠点・JA東京アグリパーク

東京都本部は今年2月と5月、農林水産物の販売や情報発信を行う「JA東京アグリパーク」で、「全農東京」×「旬八青果店」のコラボマルシェを開きました。

都心の消費者に都市農業、国産農畜産物をPR

旬八青果店は、生産者の情報や食べ方の提案を合わせた産地直送の〝こだわり野菜〟の販売の他、通常は流通に乗る前の段階で廃棄されてしまう、見た目はいびつでも味の良い規格外野菜の販売などを行い、東京都本部は、エーコープマーク品を中心とした加工品や東京都産農産物を販売しました。

イベントには計9日間で延べ1万4000人を超す方に来場いただき、お客さまから「都心で新鮮な野菜を買うことができてうれしい」、「形は変だったけど、おいしかったからまた買いに来ました」などの声をいただき、都心の消費者に都市農業・国産農畜産物のPRを行いながら、安全で新鮮な国産農畜産物をお届けできました。

今後も東京都本部は、東京農業・都市農業の重要性をPRしていくとともに、自己改革で進める「農業者の所得増大」に向けた販売力の強化を目指していきます。

※**旬八青果店**　全農が出資する㈱アグリゲートが展開する都市型青果店。「新鮮・美味しい・適正価格」をモットーに、都内に11店舗（2018年5月現在）を展開。

JA東京アグリパーク 全国の団体も利用OK

JA東京アグリパークは東京都のJR新宿駅南口から徒歩4分の場所に位置し、農業の魅力や重要性を伝えるために、食と農に関するさまざまなイベントを、週替わりでJA東京グループや全国各地の農業団体が出展するイベントスペースになっています。都内のJAや農業団体だけでなく、国産農畜産物のPRの場として、全国各地の団体でご利用いただけますので、販促イベントなどでぜひ、ご利用下さい！

店舗概要

店舗名	JA東京アグリパーク
所在地	〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-10-12 JA東京南新宿ビル1F
営業時間	11:00～18:30 ※イベントの内容によって前後する場合があります。詳しくはHPから各イベント内容をご確認ください。
定休日	月曜日
URL	http://agripark.tokyo/

TODAY'S AGRI NEWS
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）
毎週（月）～（金）6:30～6:35全国一斉生放送!
今朝の日本農業新聞の記事とJAの役員インタビューをお届けします!

JA全農 × JCA

28日 北海道北見市で カーリングキャンプ開催

カーリング好き集まれ! 聖地でLet's カーリング教室!

全農は、スポーツを通じて子どもたちの健やかな心身の成長と親子のふれあいを応援するため7月28日、北海道北見市のアドヴィックス常呂カーリングホールで開催される「カーリングキャンプ2018常呂」に特別協賛します。【広報部】

豪華な講師をお招きし、小学生を対象としたカーリングの実技を行うとともに、食に関する座談会を含めたトークショーなども予定しています。

この夏、子どもたちの最高の思い出となる「カーリング体験」となるよう、盛り上げてまいります。

カーリングキャンプ概要

1. 日時　平成30年7月28日(土) 10:00～14:45
2. 会場　アドヴィックス常呂 カーリングホール(北海道北見市)
3. 主催　公益財団法人日本カーリング協会(JCA)
4. 主管　公益財団法人日本カーリング協会アスリート委員会
5. 特別協賛　全国農業協同組合連合会(JA全農)
6. 申込　Nツアー㈱農協観光ホームページから https://ntour.jp/ ▶▶▶▶
7. 申込締切日　7月13日(金)

豪華な参加講師陣(予定)

LS北見

本橋 麻里選手

吉田 夕梨花選手

SC軽井沢

両角 友佑選手

チーム北海道

阿部 晋也選手

食と農のWEBマガジン
Apron エプロン
Web限定の「レシピ検索」「菜園づくり」etc.
ぜひご覧ください!
Webマガジンはこちらから
Apron Web 検索
https://apron-web.jp/

JAタウン ショップ紹介

JAタウン 検索 クリック

JA新おたる(北海道)

JAタウンはこちらから

紅秀峰 7月の北海道の旬 仁木町産さくらんぼ(300グラム2パック)……5200円

北海道のさくらんぼは、7月に旬を迎えます。

栽培面積は全国で2番目に大きく、仁木町は北海道で1番広い作付面積を誇る産地です。

北海道ならではの昼夜の寒暖差が大きい風土は、果実栽培に最適で毎年おいしいさくらんぼが収穫されます。

中でも人気の品種の一つ「紅秀峰」は、最も遅い7月後半から収穫が始まります。「紅秀峰」は、「佐藤錦」と比べて酸味が少ないため、より甘みを感じることができ、果皮もしっかりしているので、食べ応えがあるのが特長です。

他県産のさくらんぼが終わってしまったこの時期、北海道産のさくらんぼをお楽しみ下さい。

なお、ご紹介した商品は、7/20(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03－5218－2517までご送信ください。
商品代金のほか、クール代、送料が必要となります。

JA全農のインターネットショッピングモール
▶ご注文は http://www.ja-town.com
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。

発行／全国農業協同組合連合会　2018年(平成30年)7月9日 発行(毎週月曜日発行)
第3245号　編集・発行人／広報部　落合成年
〒100－6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号JAビル　TEL03(6271)8055

私たち全農グループは、生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋になります。